

第5回宮代町公共施設マネジメント会議議事録

1 開催日時

令和4年2月3日（木） 午後4時00分～午後7時00分

2 開催場所

役場2階202会議室

3 出席者

佐々木誠委員長、難波悠副委員長、唐松奈津子委員、佐藤恵祐委員、力石琢磨委員

（事務局）企画財政課

栗原課長、伊東副課長、小川主幹、大越主査

4 次第

- 1 開会
- 2 第2期公共施設マネジメント計画素案について
- 3 その他

5 議事(要旨)

第2期公共施設マネジメント計画素案について

第2期公共施設マネジメント計画素案について、以下のような意見交換があった。

【事務局から素案の概要の説明】

佐々木委員長 素案についての意見交換の前に、前回の会議を受けて、佐藤委員から意見等をまとめたメモをいただいているので、その説明をお願いしたい。

佐藤委員 第2期公共施設マネジメント計画（以下、第2期計画）の要点整理と新たな機能を持った施設等の使われ方について考えてみた。まず、第2期計画では、単に施設にかかる経費を削減させるのではなく、施設の役割と機能を精査して、既存施設をうまく活用していくことが重要となる。「身近に必要な施設と広域的に利用する施設の整理」や「3つの駅を核とする地域コミュニティのエリア整備」について、明確に載せていければよいと思った。また、新たな機能を持った施設については、地元の小学校を例に具体的な使われ方をイメージしたものである。地域の人たちと施設の在り方を共有できればという視点で書いてみた。

唐松委員 佐藤委員のメモを読んで、素案には移動手段やデジタル活用の話が抜けているのかなと思った。ぜひ盛り込んでいただきたい。

難波委員 デジタル活用の話は、31ページの図書館のところに少し入っていたと思う。

力石委員 モビリティの視点は抜けている。

佐々木委員長 あとは学校を地域の交流の場としてもイメージが湧きづらいと思うので、具体的に書ければよい。

佐藤委員 小学校と公民館の再整備については、教育委員会が小中学校適正配置に関する審議会委員に話をされていて、理解も得ているようだ。

難波委員 岩手県の紫波町では、空き地（公有地）を活用するときに、職員が公民連携基本計画を作り、10年後の町の1日をポエムのように紹介して生活のイメージを共有していた。統廃合をする際にコストカットの話ばかりだと反対派も多いが、みんなでイメージを共有してよいものを作っていこうとすると感じ方も変わってくると思う。佐藤委員の具体的なイメージを計画の「はじめに」に載せてもよいかもしれない。

佐藤委員 私の話では地区が限定されていて、計画全体を考えると載せるのは難しいかもしれないが、みんなでイメージを共有しながら取り組んでいけるとよい。

佐々木委員長 エッセイであったり、絵とセットにしたたりするのもよいと思う。東武動物公園駅構内の通路に描かれている絵は、東武鉄道が無印良品に監修を依頼して、駅から徒歩15分ほどで行ける施設をイメージしたもので、利用者に楽しんでほしいという思いが込められているようだ。それらを参考にして、公共施設の50年後の絵が描けるとよいのかもしれない。

力石委員 紫波町は官民連携の全国モデルと言われていて、地元の熱い志を持った多くの人たちと連携してまちづくりを行っている。宮代町もそうなってもらえるとよい。

佐々木委員長 素案について意見などあればお願いしたい。

佐藤委員 全体的にはこれまでの会議やワークショップの内容が入っていてよいと思うが、言い回しなど細かいところが気になっている。16ページの「地域コミュニティにとって必要な3つの要素」の中に「高齢化が進み、人々の活動の範囲は狭まっています。」とあるが、私の周囲には当てはまらない人が多い。ただ、高齢化が進み、独居老人や災害時に援護を必要としている人が増えているのは事実なので、福祉や防災の観点から、身近に人々が集まる場が求められているという流れにした方がよいのではないか。

唐松委員 私も違和感を覚えた。高齢者にフォーカスした話になっているが、これまでの会議の中では子どもの居場所がないといった課題に対して提言があり、それも盛り込むべきだと思った。まとめてしまうと社会ニーズが変わったとなるが、そのあとの流れを踏まえると世代ごとに設定してもよいと思った。

佐藤委員 多世代から身近なコミュニティが求められているから整備していくという表現にできればよいと思う。

佐々木委員長 高齢者だけでなく、さまざまな世代を含めて言い直しを見直してほしい。

では、順を追って見ていくことにするが、13 ページまでの計画の前提について意見などあるか。

私が気になったのは、2 ページの「本計画で検討対象とする公共施設」のところ、今回対象としていないインフラなどの施設については総合管理計画で補完するという表記があった方がよいと思った。

佐藤委員 3 ページの施設の分類で「文化施設」とあるが、25 ページや 32 ページでは「生涯学習施設」となっている。同じものであれば表現を統一した方がよいと思う。

佐々木委員長 この分類に関しては一般的な行政の表記なのか。計画書の中での整合性もあるが、一般的な計画書の内容と齟齬がないように見直してほしい。

唐松委員 確認になるが、第 1 期公共施設マネジメント計画（以下、第 1 期計画）では大きな軸として「財政運営上の側面」と「住民ニーズ、行政課題の変化」が挙げられていて、その振り返りでは財政上の側面が先に書かれているが、そちらを重視したという理解でよいのか。今の書き方だとそう見える。

難波委員 おそらく第 1 期計画策定当時は財政面に光を当てたというのがひとつの価値だったと思う。道路や学校が老朽化している中で、長期で見たときに全て直すとお金が足りないというのがスタートだったのは間違いない。重視していたかは別だが、議論の中心だったのだと思う。

唐松委員 そういった背景が分かるような説明があると理解が進むと思う。

力石委員 第 1 期計画は時代に合っていて成果もあったと思う。11 ページには第 1 期計画の取り組みがいくつか書かれているが、財政運営上の側面で実際どういう成果があったのかをもう少し言及してもよいのではないか。そのうえで、第 1 期計画は意義も成果もあったが、今後 10 年を考えると時代が変わって価値観も多様化してきたという具合につながりがもう少し見えるとよいと思った。

佐々木委員長 財政面についてももう少し明確に書いて、第 2 期計画ではこういったことにシフトしているという書き方にした方がよい。

難波委員 財政面をぼやかしすぎると結局は経費削減だと誤解されることにもつながる。施設の規模や機能の課題が出てきて、検討したところお金をかけるべきはここだと言っていく方が、第 2 期計画につながると思う。

佐々木委員長 6 ページの「規模の課題」、「機能の課題」のところに「財政的な課題」を書いてもよい。あとは、9 ページの各種計画書の位置付けが中途半端なので明確に書いてもらいたい。また、10 ページに「学校を地域の中心施設とする考え」とあり、学校がメインで他の機能はサブのように見えるが、第 1 期計画では、小学校の空き教室を他の用途に転用するスケルトンインフィルについても書かれていて、実は対等だという考えがあったことを書いても

よいと思った。

それでは、14 ページ以降についてはどうか。

力石委員 17 ページの3つの要素の図だが、それぞれ重なり合っていた方がよいと思った。

唐松委員 「目的がない人も行ける開放的な空間」を「目的がない人も居られる～」とした方が、居場所的な雰囲気が出てよいと思った。

難波委員 「開放的な空間」となっているが、第2期計画は機能に注目しているので、「居場所機能」としてもよいのではないか。具体例には「開放的でみんなが活躍できる場」といったように。

佐々木委員長 ハード的なイメージをソフト的にしたいということか。「目的がない人も居られる開放的な場所」くらいでよいと思う。

難波委員 16 ページの3段目について、こんなに否定する必要があるかなと思った。開放感が足りないのは事実だし、ワークショップではやりたいことがなかなかできないという市民の声もあったので、もっとそういう場にしていきたいという感じにすればよいと思う。

佐々木委員長 否定するのではなく、こうなればもっとよくなるという書き方か。

難波委員 総合計画で掲げている人が輝く町を創るためにはこういう場所や機能が必要で、そのために公共施設をこうしていきたいという書き方がよいと思う。

唐松委員 図の中には機能を重視することが書かれているが、見出しにも明確に書いていってもよいと思う。例えば、14 ページの(1)「第2期計画で示すもの」の中で、第2期計画は機能を重視していくといった見出しを入れていけるとよい。手法は見出しでよいのか整理できていないが、見やすくできればと思う。

佐々木委員長 15 ページの図はどうか。

難波委員 宮代町のことをよく知っている人でも一目見ただけでは分かりづらいかもしれない。進修館や笠原小の矢印が個別更新から出ているのに違和感がある。建て替えができないから長寿命化して残していこうとしているのに、出発点が個別更新でよいのか。

佐々木委員長 個別更新ではなく長寿命化などとして、出発点の位置を区別するだけでも分かりやすくなる。

難波委員 第1期計画では個別更新と言っていて、それが第2期計画ではこうなったとしてもよい。

佐々木委員長 第1期計画の進修館と笠原小の位置づけはどうだったのか。

- 事務局 長寿命化としていた。位置づけは変わっていない。
- カ石委員 図で表すのであれば、第1期計画と第2期計画の考え方や関係性が分かるようにした方がよい。
- 佐々木委員長 変化のイメージも含めてうまく表現したい。
- 難波委員 第3期、第4期と具体的に出すのではなく、これから数十年後の姿とぼんやりさせてもよい。
- 事務局 最後のペクトルの20××年は第1期計画で示したものの。保健センターやぐるるや図書館の更新時期を明確に書くことが難しかったのでこのような表記にした。
- 佐々木委員長 第2期計画では26ページに再編モデルとして方向性がまとめられている。
- 難波委員 30ページを見ると、ぐるるも建て替えはないと書いてある。そうするとどこかに吸収されていくということか。
- 事務局 地域への機能の分散や民間の力を借りた運営などになると思う。第1期計画では小中学校以外は建て替えないとされていて、10年ごとに社会情勢の変化を見ながら考えていこうとしていた。
- 佐々木委員長 そうすると15ページの図は結論になるのではないか。
- 事務局 32ページに載せてもよいのかもしれない。
- カ石委員 15ページの図は、公共施設の中だけでやりくりされるように見えるが、実際は今後のアプローチで書かれているように民間の活用もしていくのだと思う。民間の要素を入れて整合性を図った方がよい。
- 難波委員 17ページにも言える。公共施設に必要な3つの要素はそのとおりだと思うが、民間の取組でも人の営みとしてコミュニティに必要なものは入れていくのはどうか。
- 佐々木委員長 第1期計画では官民の境界が明確であったが、第2期計画ではそれがなくなっていくというように。
- 難波委員 過疎地では郵便局に役場の支所機能があったり、ガソリンスタンドに備蓄倉庫を設けたりしているところもある。民間にお金を払ってでも公共の役割をお願いする部分があり、その逆もあるので、そういうイメージも大事だと思う。
- 事務局 それが18ページの図で表現できればよいのかもしれない。

- 難波委員 第1期計画では運営を民間にということだったが、第2期計画では機能もというように。
- 佐々木委員長 または、第1期計画ではハード面の建物だったのが、第2期計画ではソフト面のエリアに変わったとして違いを明確にしてもよい。
- 力石委員 18ページや19ページにエリアマネジメントの概念が書かれているので、24ページや25ページではその推進について入れてほしいと思っている。
- 佐々木委員長 エリアマネジメントという単語が分かりづらいという話もある。
- 事務局 それをどのように説明していくかが難しい。
- 難波委員 人の営みとサービスを一致させるという表現が個人的にはしっくりくる。事業者や分かる人にはそういう単語を伝えることが重要だと思う。
- 唐松委員 13ページの50年の視点と10年の視点のように、コラムでエリアマネジメントの説明を入れてもよいと思う。
- 佐々木委員長 佐藤委員のメモもコラムで載せたい。
- 難波委員 エリアマネジメントと言われると役場は必要ないと思う人がいるかもしれないが、そのときに公共サービスをどうしていくかといった問いかけがあると、読み手もイメージが湧くし、考えてくれると思う。
- 事務局 コラムを入れるとするとどのあたりか。
- 佐々木委員長 18ページ、19ページになる。
- 難波委員 エリアマネジメントとは少し離れるが、同じページに町で行われている情報がうまく集約、発信できていないという話があり、それらをつないでくれる人が必要だということも入れたほうがよい。
- 事務局 地域コーディネーターのところに情報が集まってくることは書いているが、もう少し膨らましていく。
- 佐々木委員長 コーディネーターと情報で項目を分けてもよい。
- 難波委員 公共施設の予約システムの話もあった。
- 唐松委員 町民にとってもオープンで入手しやすい環境の整備など。
- 難波委員 25ページの既存施設の有効活用にもつながるかもしれない。

- 佐藤委員 誤解がないようにという点では、21 ページの「地域の中心施設の配置」について、今のままでは小中学校の適正配置が動かないから先にマネジメント計画で進めていくというイメージを持つ人がいると思う。適正配置の議論は変わっておらず、歩調を合わせながら地域の中心施設に寄せていく方向性だという表現にした方がよい。24 ページの「③公共施設によらないサービスの提供」と「④民間力の活用」は同じではないか。例えば、③は公共施設のみに頼らないサービスの提供、④は施設管理の経費削減、収益性向上の工夫としてもよいのではないか。
- 力石委員 ④にデジタルやモビリティなどの要素を入れてもよいと思う。
- 難波委員 これまでは公共施設と公共サービスが1対1で結びついてきたが、今は公共施設でなくても公共サービスが提供できるようになっている。民間のサービスであっても公共施設が使えるかもしれない。そしてそれらはデジタルでより加速するといったような10年を見据えたものにしてよい。
- 佐々木委員長 「民間と公共の関係性の変化」と「民間力」についての見出しがほしい。
- 難波委員 ここに加えてもよいと思ったのは、財政のところにも関連するが、機能に着目して複合化や民間施設を使うと補助金を得られないという話。公共施設の性質上しかたがないことだが、だからこそ規模を絞らなければいけないし、機能を残すための工夫をしなければいけないし、収益性を向上させなければいけないとなる。町として補助金をもらって建て替えるか、もらわずに集約するかを判断して謳えとよい。
- 佐々木委員長 他に意見はあるか。
- 唐松委員 計画の最初の方に第1期計画からの10年間で変わったことを社会変化も含めて入れられると背景が分かりやすい。
- 佐々木委員長 5ページの「公共施設を取り巻く現状」のところに国や県との関係も書いたほうがよい。社会的な変化としてキーワードを挙げてほしい。
- 力石委員 価値観。
- 難波委員 規制や制度、技術、ニーズメンタリティ。
- 佐々木委員長 AI。
- 事務局 コロナ。
- 佐々木委員長 公共空間の規制緩和。

唐松委員 PFI。

難波委員 貨客混載。

佐々木委員長 SDGs。

難波委員 これからの10年を見据えると、国が掲げているカーボンニュートラルに触れなくてよいか。

力石委員 要素としてあった方がよい。

事務局 概念ではなく実態としてはスマホの普及。

佐藤委員 DX。

佐々木委員長 SNS。

力石委員 キャッシュレス。税金も納められる。

佐々木委員長 クラウドファンディング。

難波委員 規制側が追い付いていないが、国は公共施設の非保有手法を言い出している。公共が持たない公共施設となると、理念はよいが補助金が追いつかない。コンセッションなど。以前はこういった機能や技術がなかったから、施設を減らすか小さくするしかなかったが、今は充実しているので、それらを踏まえて公共施設の機能に着目してみたとしてもできる。

佐々木委員長 最近だとメタバースもある。24ページに戻ると、「民間力の活用」の中にはESCOやPPP、PFIなどいろいろなキーワードが入っているとよい。町で取り組むときのアリバイにもなる。コンセッションはどうか。

力石委員 コンセッションはどちらかというとインフラ系がメイン。

難波委員 最近は道の駅や林間学校などの小さいところでも活用されている。ただ、言葉で難しくしすぎてしまうと読みづらかったり、誤解したりする人も出てくる。

佐々木委員長 用語集や脚注、コラムで説明していくのはどうか。

力石委員 硬くならないようにコラムがよいと思う。読み手も入ってきやすい。

事務局 コラムにする。

- 佐々木委員長 21 ページは図など入るのか。
- 事務局 特に予定はない。
- 佐々木委員長 20 ページのワークショップはコラム的に載っていて、詳細は最後に資料として載るのか。
- 事務局 その予定である。
- 佐々木委員長 6 つの付箋に意見が書かれているが、見開きにして委員会の意見を代弁するようにアピールしてもよいのかもしれない。無印や中高生の居場所の話なども出したいところ。
- 事務局 付箋の内容は基本的にグルーピングした見出しから持ってきている。
- 佐々木委員長 かなりよい意見が出ていたのでもう少し活かしたほうがよいと思った。あとは 21 ページに配置のことが書かれているので図が入るとよい。
- 佐藤委員 エリアを考えると 3 つの駅が中心になってくるので、18 ページに出ているエリアの図を団子のように 3 つ並べたものがあるとイメージが湧きやすい。21 ページの配置のところに入れるか、27 ページの小中学校のところに入れるかは迷うが。4 ページの図とリンクさせる感じになる。
- 事務局 線で分けられる地域があるので、生々しくなってしまう。
- 佐々木委員長 少し抽象化して、明確に書けないモビリティの話もそこに入れていくのがよいのではないか。3 つの拠点の間はつなげて 21 ページに入れる。22 ページから 31 ページまでで意見があればお願いしたい。
- 難波委員 22 ページから 23 ページへのつながりを見ると、21 ページの話が必要だったのか疑問に思った。話が戻っているような気がするので配置の話は後に持っていてもよいのではないか。また、23、24 ページは概念と具体の説明が混ざっている。その前の 22 ページで個別施設の話が出ているのでさらに分かりづらい。
- 佐々木委員長 個別施設の具体的な話は 27 ページからに見えるが、これが再編モデル案ということでよいのか。
- 事務局 22 ページから 26 ページまでは全体、27 ページからは個々の施設の話がメインになる。
- 佐藤委員 概念や全体的な話をするのであれば、22 ページの表で各施設名を出さなくてもよいと思う。また、25 ページの「⑥既存施設の有効活用」で、2 段目の「既存施設については、・・・」と 3 段目の「コミュニティセンター進修館と・・・」を入れ替えた方がよいのではないか。

- 佐々木委員長 あとは受益者負担などのお金の話をどこかに入れたいと思っている。
- 難波委員 24 ページの「④民間力の活用」のところに、適正負担ということで入れるか。
- 佐藤委員 26 ページの「再編モデル案」の更新時期の確認だが、保健センターと郷土資料館の間に学校給食センターが入ってくるはずだが触れられていない。他にも載っていない施設があるが、それでよいのか。
- 事務局 全ての施設を載せているわけではなく、具体的に提案している施設のみ掲載している。
- 佐々木委員長 そもそも 26 ページの図の意味が分かりづらい。この時期に建て替えると誤解されるかもしれない。
- 力石委員 確かに建て替えありきに見えてしまう。後のページとのつながりも分かりづらいかもしれない。
- 佐々木委員長 言葉についても 3 ページは「更新」で 26 ページは「建て替え」と書いてある。意図が読み取れるように表現の仕方とあわせて検討してほしい。あとは、再編モデル案とあるが内容が少し薄いように感じる。ここに進修館と笠原小は入れなくてよいのか。
- 事務局 その施設の機能をどうしていくかという視点で書いているので長寿命化の施設については触れていない。
- 難波委員 中心施設に集めていく中で受け皿になる施設だとは思う。
- 佐々木委員長 いろいろな可能性を書いた方がよいのではないかと。新しい村についても書いてほしい。
- 事務局 新しい村については、第 5 次総合計画の中でコンサルが入っていて、来年度から具体的に検討することになっているため、モデル案としては書きづらいところがある。
- 難波委員 再編モデルではないかもしれないが、会議の中で収益性を上げるための方法を散々検討してきたので盛り込んでほしい。
- 事務局 ここは 15 ページとのつながりで書いている。
- 難波委員 そうすると 15 ページの図がそもそもこの考え方なのかということになる。
- 唐松委員 個別施設を分けるのであれば、六花や保育園にも触れないと違和感はある。
- 佐藤委員 個別施設計画はこれから作るのかもしれないが、26 ページ以降を再編モデル案とするならば、全体的なマネジメントについて一通り書いておいたほうがよい。

- 佐々木委員長 書きづらい施設があるのであれば、民間との役割分担の視点で書いてもよい。
- 難波委員 現地視察をしたときにはここ数年ではなく長期的な視点で見ていた施設もある。
- 事務局 そういった議論していない施設については、次の 10 年に委ねるということで触れていない。
- 佐々木委員長 13 ページに 10 年の視点と 50 年の視点があるので、臆気でもいいから長期的な方向性を載せておいたほうがよいのではないか。
- 佐藤委員 第 2 期計画では、小中学校と公民館を拠点としてエリア全体でコミュニティをつくっていくことがメインなので、そこにスポットを当てられればよいと思う。
- 難波委員 佐藤委員のメモでも身近な施設と広域施設のことに触れていて、この会議でも議論はしてきた。これが 2043 年だと言われてしまうと計画外になってしまうので、20××年を目指していくとして個別に書くこともできる。中心施設となる小中学校や公民館をはじめに持ってきて、それ以外に議論に上がった施設を載せたとしてもよい。
- 佐々木委員長 長期的な考え方は 25 ページまでに書いて、26 ページ以降は今後 10 年間の具体的な取組を書くという構成でよいと思う。
- 難波委員 更新時期となるとずいぶん先のことになってしまうので、予定されている更新期間はこれで今後 10 年間はこう考えているという具合でよい。
- カ石委員 そういう整理でよい。
- 難波委員 細かいところになるが、28 ページの公民館の説明について、16 ページでも指摘したとおり、「開かれた場」や「活動したい人を応援する場」というようなポジティブな表現を使った方がよい。他の施設についても宮代町の場合はネガティブに書く必要はないと思っている。
- 佐々木委員長 サードプレイスというキーワードも出てきた。
- 難波委員 ワークショップで欲している人がたくさんいることが分かったので、公共としても後押ししたいという表現にする。あとは 29 ページの保健センターの説明にある「今後 10 年間で機能を整理し」という部分。整理と言われると縮小や廃止のイメージを与えてしまうかもしれないので、「精査し」または「分類し」としたほうがよい。また、30 ページのぐるる宮代の説明に「適切な利用者の負担」という部分を盛り込めればと思っている。
- 佐々木委員長 ぐるる宮代に関しては「民間力」、「指定管理」というキーワードを入れるべきだと思う。図にはあるが文章にも入れてほしい。

- 難波委員 10年間を見据えるとボイラーの更新が大きい。ESCOの話をここにも載せてよいと思う。
- 唐松委員 8ページの2段目にある「もっともな話です」、9ページの2段目にある「説得力がありません」という表現は、主観的で気になる。あとは17ページの3つの要素「3. やりたいことをサポートする機能」の例示の中に「~してくれる」とあるが、「~できる」といったように行政ではなく住民が主体の表現に変えた方がよいと思った。
- 力石委員 28ページの公民館は、地域の中心施設への機能移転としか書かれていないが、民間を活用して機能をシェアすることもあると思うので、民間活力もイメージできるような表現にできるとよい。
- 佐藤委員 公民館の説明の文頭に「当町の」と加えた方がよい。職員が常駐している公民館もあるので。
- 難波委員 町の所有ではないかもしれないが集会所もそうだと思う。公民館は便利なところにしかないの、不便なところは集会所で補完するとした方がよい。運営は官でも民でもよいが。
- 佐々木委員長 公民館の機能を中心施設である小中学校に移転するのと同じように、地域の状況に合わせて既存の集会所や空き家、空き店舗などにもその機能を移転していくイメージになる。
- 事務局 27ページの図のような感じか。
- 佐々木委員長 そうなる。
- 難波委員 27ページの図で地域の中心施設に書かれている学校とコミュニティセンターが気になっていた。第1期計画が学校を強く打ち出していたので引きずられてしまうが、コミュニティセンターは学校だけではない。
- 唐松委員 コミュニティ機能という書き方がよい。
- 佐々木委員長 最後の32ページ、33ページはどうか。
- 難波委員 第1期計画と同様に行政中心の視点で書かれているが、第2期計画では機能に着目していることからコーディネーター、つなぎ役という視点があった方がよいと思う。「コーディネーターやつなぎ役を探す・募集する」、「市民の意見を聞く」、「空き家・空き店舗を探す」、「民間企業と連携・協力する」といったことがどこかにほしい。
- 佐々木委員長 18ページ、19ページを実行するためにどうしていくかとなる。
- 難波委員 14ページでは第5次総合計画のことが書かれていて、総合計画でも人とのつながりの話はたくさん出ていると思うので盛り込めるとよい。

- 佐々木委員長 32 ページの計画進行のイメージには公共施設しか書かれていないので、集会所や店舗、カフェなどを点線でもいいので反映させてもよいと思った。
- 事務局 集約していくというイメージがうまく伝えられるようにしていきたい。
- 唐松委員 同じく計画進行のイメージのところ、結局ハコモノの話で終わってしまうのは残念なので、実施体制や工程も図の中に入れられるとよいと思った。具体的には総合計画の5年間の工程のようなイメージで、民間の活用も含めて表現できると分かりやすい。
- 事務局 総合計画では一定の期間内に行政がやるべきことを工程表にして示しているが、マネジメント計画は専門的な視点で行政の在り方を提案していくというものなので、少し位置づけが違うのかもしれない。
- 佐々木委員長 他に実行に向けて書いておいた方がよいことなどあるか。
- 力石委員 先ほど少し触れていたが「民間との対話促進」という要素を入れた方がよい。エリアプロデューサーや担い手の発掘など。
- 事務局 地域をつくる主体として官民の垣根を取り払うといったことが書けるとよいのかもしれない。
- 佐々木委員長 まちづくり会社もある。
- 事務局 大学や駅前の商店街も含めてパートナーとしていく発想か。
- 難波委員 計画の最初の方のこの10年間で変わったことの中に、こういう主体が出てきているというように書いてもよい。公共施設だけで考える時代は終わったと。
- 力石委員 最近ではフィンランドの団体も活動していて、そういう芽があちこちで出てきていることも書ける。
- 佐々木委員長 大学も地域貢献している。工程表までは書けないかもしれないが、実行に向けたプロセスが分かるとよい。
- 唐松委員 市民活動の推進や住民自治へのバックアップについて書いてもよい。
- 難波委員 小さな事業者を応援していることも書ける。そういう人たちが地域でコーディネーターを担ってくれれば嬉しい。
- 佐々木委員長 宮代町には要素が潤沢にそろっているの、それをうまくつなげられるような計画にしたい。

以上

